

第18回 ORIS Seminar

これからのワインを考える

—— 歴史性、多様性、可能性

On the Futures of Wine : History, Diversity, Possibility

フランスにおけるワインの社会的表象（社会で共有されたイメージや価値づけ）がいかに形成されてきたか。歴史的背景を探ることによって明らかにし、ワインの多様性と可能性を探る。パネラーのうち野澤と君塚は、フランスでワインに関する流通の歴史的研究で博士論文を書いた新進気鋭の歴史学者であり、また福田はフランス文学の研究から飲食の社会史へと転じ、ワインを社会学的文化人類学的に考察している。歴史学と社会学・文化人類学との協同によって、フランスのみならず日本もふくめた世界におけるワインの在り方と可能性が多角的に検討されることになるだろう。

パネリスト

野澤 丈二（帝京大学 経済学部 専任講師）

福田 育弘（早稲田大学 教育学部 教授）

君塚 弘恭（早稲田大学 社会科学部 専任講師）



2016.12.1 [Thu.]
16:30-18:30

早稲田キャンパス 14号館604教室

主催：現代フランス研究所

共催：先端社会科学研究所

【Venue】Room604, Building 14,
Waseda Campus

言語：日本語

ROMANÉE
CONTI

「ロマネ・コンティのぶどう畑」2016年8月 福田撮影